

|           |                                    |      |              |    |       |
|-----------|------------------------------------|------|--------------|----|-------|
| 開講日       | 2015年春期<br>木曜日 18:30-20:00         | 講義場所 | 研究棟11階講義室A・B | 定員 | 60名程度 |
| コースディレクター | 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学 特任教授 赤津 裕康 |      |              |    |       |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 科目概要<br>および<br>期待される<br>成果 | <p>【概要】2000年に始まった介護保健は年々その重要性を増している。2025年には高齢者人口は約350万人に達し介護・医療の一体化による地域包括的な体制が今後は加速される事が予想される。今後、労働人口は減少するなかで、独居、認知症の高齢者が急増する。さらに2004年には100万人であった年間死亡者数が2025年には160万人になると予想される。この間、平均寿命は延びたが健康寿命を差し引いた要介護期間は短縮されていない。国内の総病床数が今後増やされる可能性はきわめて低い現状である。本講では学びなおしというよりは、来るべき超高齢社会にいかに対応すべきか、主に地域・在宅医療に重点を置いて、その現状と今後の課題について各領域の専門家をお招きして総論・各論的に学んでいきたい。</p> <p>【期待される成果】今後の超高齢社会の問題点を把握し、医療人として求められる資質を自分なりに考察できる医療人に変容されることを期待したい。</p> |
| 目標とする<br>資格                | 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、神経心理士、歯科衛生士  |

| サブカテゴリ | No | タイトル                         | 講義概要   | 開講日   | 講義室  | 講師(所属)                                     |
|--------|----|------------------------------|--|-------|------|--|
| L-1    | 1  | 身近な在宅支援診療の現状                 | 15回におよぶ全貌を把握しつつ、現在、名古屋市区で精力的に在宅支援診療を行っている医師に現状と問題点についてお話しします。  | 4月16日 | 講義室A | 院長 姜琪錦<br>みどり訪問診療所                         |
| L-2    | 2  | 在宅における栄養管理<br>管理栄養士の役割       | 栄養状態の良し悪しは身体状態に影響します。在宅療養者における栄養の問題と管理栄養士による在宅療養管理指導の現状と課題をお話しします。   | 4月23日 | 講義室B | 教授 井上 啓子<br>至学館大学 健康科学部 栄養科学科              |
| L-3    | 3  | 名古屋の超高齢社会における<br>今後の高齢福祉行政   | 名古屋市における高齢福祉行政の現状と来るべく超高齢社会に向けた取り組みについてお話しします。   | 4月30日 | 講義室B | 部長 松雄 俊憲<br>名古屋市健康福祉局高齢福祉部                 |
| L-4    | 4  | 在宅における口腔ケア・嚥下<br>評価の重要性      | 健康をささえる食事を受け入れる口腔・嚥下領域で地域・在宅での取り組みを精力的にされている歯科医より、その重要性と超高齢社会を迎える心構えをお話しします。   | 5月14日 | 講義室B | 医長 野原 幹司<br>大阪大学歯学部附属病院<br>顎口腔機能治療部        |
| L-5    | 5  | 超高齢社会における<br>胃ろう管理           | 口から食事がとれなくなったらどうするか。胃ろうの是非はまだ議論のあるところですが、一部の高齢者やその家族にとってはその選択で良好な状況を得られる場合もあります。医療者にとって胃ろう管理は必要な知識であり、そのポイントをお話しします。   | 5月21日 | 講義室A | 院長 蟹江 治郎<br>ふぎあげ内科・胃腸科クリニック                |
| L-6    | 6  | 尾道方式における中核病院<br>の取り組み        | 地域包括支援体制を医師会中心で構築した尾道市の中核病院における地域支援の取り組みについてお話しします。  | 5月28日 | 講義室B | メディカルソーシャルワーカー<br>中谷 公香<br>尾道市民病院地域連携室     |
| L-7    | 7  | 高齢者における緩和ケア                  | 高齢化の進行によりがん患者数も増加が予測されます。早期発見、早期治療により癌の完治率も増加したが、それでも手遅れとなれば不治の病です。その現状で必要性が増してくる高齢者の緩和医療の現状と今後を把握します。                 | 6月4日  | 講義室B | 部長 飯田 邦夫<br>協立総合病院緩和ケア診療部                  |
| L-8    | 8  | 地域における認知症対策<br>(みまもりつながりノート) | アルツハイマー病の最大のリスクは加齢です。超高齢社会ではアルツハイマー病等の認知症を社会で見えていく必要があります。地域でいかにささえるか、認知症の概況と地域で出来ることを認知症ケアの第一人者にお話しいただきます。            | 6月11日 | 講義室B | 講師 数井 裕光<br>大阪大学大学院医学系研究科<br>精神医学教室        |
| L-9    | 9  | 高齢者の褥瘡                       | 褥瘡は在宅医療を必要とする高齢者に多い疾患であるとともに、多角的かつ包括的な取り組みが必要です。高齢者医療全体と局所治療、病院医療と在宅医療など医療と介護を上手に連携させることが重要です。褥瘡の病態に基づいた基本的な考え方を概説します。 | 6月18日 | 講義室A | 医長 磯貝 善哉<br>独立行政法人国立長寿医療研究センター<br>先端診療部皮膚科 |
| L-10   | 10 | 地域における訪問看護ス<br>テーションの役割      | 訪問看護ステーションの現状と今後の課題についてお話しします。   | 6月25日 | 講義室B | 訪問看護師 荒木 裕美<br>名古屋市療養サービス事業団               |
| L-11   | 11 | 地域における居宅支援薬局<br>の重要性         | 居宅支援を行う薬局はまだ国内でも僅かであるが、今後の医療体制において極めて重要な役割が期待されています。その現状と課題についてお話しします。   | 7月2日  | 講義室B | 代表取締役 萩田 均司<br>薬局つばめファーマシー                 |
| L-12   | 12 | 都市部における先進的在宅<br>支援診療         | 世田谷区における多職種を巻き込んだ在宅支援診療の現状と今後の方向性についてお話しします。   | 7月9日  | 講義室B | 院長 遠矢 純一郎<br>桜新町アーバンクリニック                  |
| L-13   | 13 | 地域における専門職連携教<br>育            | 今後の医療活動のkey wordは多職種連携です。自らが学びつづかに連携を行うか、専門職連携教育の第一人者が、そのユニークな方法論をお話しします。  | 7月16日 | 講義室A | 教授 吉村 学<br>宮崎大学医学部<br>地域医療・総合診療医学講座        |
| L-14   | 14 | 地域における住民調査/長浜<br>コホートの取り組み   | 今後の超高齢社会では医療・介護・福祉を前倒した予防策を講じなければaging in placeの実現は不可能であり、加齢との戦いにおいて今後、鍵を握る地域住民調査の本質について学びます。                          | 7月23日 | 講義室B | 准教授 田原 康玄<br>京都大学医学研究科<br>附属ゲノム医学センター      |
| L-15   | 15 | まとめ                          | 健康寿命の延伸に必要な事、加齢性疾患の克服に必要な事、これからの医療・介護体制に加えておくべきエッセンスについて参加者で考えます。  | 7月30日 | 講義室B | 特任教授 赤津 裕康<br>名古屋市立大学大学院医学研究科<br>地域医療教育学   |